

しんぺんさがみのくにふどきこう

#1 新編相模国風土記稿 第2巻・第3巻(大
日本地誌大系)

作者：昌平坂学問所地誌調所（しょうへいざかがくもんしよ
ちししらべしよ）

校訂：蘆田伊人（あしだ・いじん、あしだ・これと 1887-1960）

刊行：平成10年（1998）

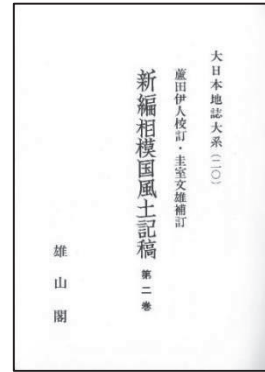
📖 解題

■ 内容

『新編相模国風土記稿』は、江戸幕府の昌平坂学問所地誌調所が『新編武蔵風土記稿』に続いて編纂した官撰地誌であり、本書は、明治21年（1888）刊行の活字本を底本に雄山閣が出版したものである。『新編相模国風土記稿』125巻のうち、第2巻は、巻之二十四から四十四まで、第3巻は、巻之四十五から巻之六十八までを収録している。

大山に関連する記載は、第2巻の「卷之四十二 村里部 大住郡卷之一」にあり、年代ごとの大住郡の図である「正保年中改訂圖」、「元禄年中改訂圖」、「今考定圖」の図の中に「大山不動」を確認することができる。また、「大山 於保也末」の項があり、「郡の西北坂本・蓑毛・子安・日向、等の村々に跨り、山趾愛甲郡丹澤山に續けり、登三里許、國中の高山なる故、大山と名づく」という記述がある。

第3巻には、「卷之五十一 村里部 大住郡卷之十 糟屋庄」に「大山 於保也末」の項がある。「大山圖」、「大山寺境内前不動堂邊圖」、「不動堂邊圖」、「石尊社邊圖」が掲載されているほか、「不動堂」等寺社に関する説明があ



[K291/1D/2-3]

第1章 地誌・案内記

り、「什寶」（柄香爐、錫杖、假面等）が図入りで掲載されている。このほか、各巻の随所に「大山道」の項があり、索引篇で検索することができる。

当館以外に国立国会図書館、横浜市中央図書館、伊勢原市立図書館等の県内公共図書館、横浜市立大学学術情報センター、鶴見大学図書館等で所蔵が確認できる。

■ 作者

昌平坂学問所地誌調所は、江戸時代の教育施設で、寛政2年（1790）より準備され、寛政9年（1797）12月から幕政上、旗本・御家人の子弟を教育する直轄の施設となった。

蘆田伊人（1877-1960年）は、明治から昭和時代にかけての歴史地理学者。生まれは福井県で、早稲田大学卒業後、東京帝国大学史料編纂官補に任ぜられた。当職辞任後は、委嘱を受けて三井男爵家遠祖資料の調査研究等に従事した。『大日本読史地図』を作成刊行し、『大日本地誌大系』を編纂刊行している。

参考文献

<翻刻>

『新編相模國風土記』全5冊 鳥跡蟹行社 1884-88 [K291/883/1-5]

<参考文献>

福井保「新編相模国風土記稿」（『江戸幕府編纂物 解説編』福井保著 雄松堂出版 1983）[027.1/1/1]

『かながわの歴史文獻 55：神奈川県関係基本史料解説目録』神奈川県立図書館調査部地域資料課編 神奈川県立図書館 2008 [K20/92] [213.7/241]